

知って欲しい、薬剤師の仕事

第2回…入院時もかかりつけ薬剤師が支援します。

多くの方が「住み慣れた町で、いつまでも安心して健康に過ごしたいと考えている」という調査結果があります。地域の薬剤師は、そうした皆さんの思いをサポートするため、様々な取り組みを行っています。薬局の薬剤師と病院の薬剤師が連携して治療に必要な患者さんの情報を共有する取

り組みもその一つです。もし入院することになったとします。病院では治療に入る前に患者さんの服用している薬の内容、服薬の状況、薬のアレルギー歴、薬によるそれまでの治療の経過などを確認します。しかし、複数の医療機関から薬が処方されている場合や市販薬、サプリメントの使

用状況などの情報を正確に把握することは容易ではありません。このような時、かかりつけの薬剤師・薬局を決めておくと、その薬剤師から病院の薬剤師に、正



確な情報が提供されることで、より安全に治療が進められるようになります。できれば、入院することが事前にわかっている場合は、かかりつけの薬剤師にもお知らせください。

また、退院して通院治療に戻った後も、病院の薬剤師からかかりつけ薬剤師に入院中に使われた薬の情報が提供されることで、安心して在宅や通院での治療を続けていただくことができます。

こうした連携に有効な手段がお薬手帳です。ご自身が受ける医療をより有効で安全なものにするためにも、外来受診時や入院時には必ず手帳を持って行きましょう。また、お薬手帳には調剤薬だけでなく市販薬やサプリメントなどの使用状況も一つにまとめて記録しておくことで、さらに効果を発揮します。いざという時の安心のために「かかりつけ薬剤師・薬局」を決めましょう。